

巻 頭 言

帯広畜産大学草地学科

村 上 馨

昨年12月12、13の両日、帯広畜産大学で開催された北海道草地研究会第10回研究発表会におけるシンポジウムは、盛況裡に終ることができて、座長を始め演者および会員各位のご協力に対し心から謝意を表する次第です。

シンポジウムは、本研究会の会員が大学、研究、行政、普及および会社・団体関係者という幅広い構成員から成り立っていることを考え合わせると、当面する諸問題について討論し合っ、一応の問題点整理ができ、かつこれが解決の示唆が与えられるならば甚だ有益であると考え企画された。

この点、一般の研究発表会のみでは、行政、普及および会社・団体関係の会員の要望を十分に満たしえないのではないかと考えた。私どもは、事務局を引き受けると同時にその準備にとりかかった。まず課題の決定であるが、これについては本研究会の評議員49名に対し、現下最も緊急解決を要すべき問題についてのアンケートを求めた。半数のものから回答を得たが、これを大別すると次の7課題に分類できた。

1. 飼料需給の限界とその可能性
(濃厚飼料の自給とその節減対策について)
2. 大規模草地の造成と管理・利用上の諸問題
3. 草地管理と家畜栄養上の諸問題
4. 草地開発と環境保全
5. アルファルファ導入上の諸問題
6. 粗飼料の品質向上について
7. 寒冷地におけるトウモロコシ栽培

これらはいずれも緊要な課題と認められたが、討論のすえ第(1)の課題を選定した。また演者については、北海道農試の示唆を参考として大学、農試、普及所および行政の4部門から選出することとした。

今回のシンポジウムを通じて、私どもは出席者が以外に普及員の多かったことに気付いた。そして現場にいるものが如何に当面する問題について関心を寄せているかを新めて知った。

私どもはシンポジウムを通じて、今後課題は現場から一農家の側から一扱い上げなくてはならないと痛感した。この意味では、現地で直接農民に接し、いろいろな問題の解決にせまられる普及員が、進んで問題提起をされることを望みたい。

北海道草地研究会は、これらの問題をシンポジウムを通じて解決していく使命を有するものと考えられる。